

IT アウトソーシングサービス市場に関する調査 2008 ーグリーン IT 普及で3兆円市場へー

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にてIT アウトソーシングサービス市場の調査を実施した。

1. 調査期間：2008年3月～2008年6月
2. 調査対象：IT アウトソーシング事業者、データセンター事業者
3. 調査方法：当社専門研究員による直接面接取材、ならびに電話・Eメールによるヒアリング、文献調査等を併用。

【調査結果サマリー】

◆ 2011年度には市場規模が3兆円を突破

2007年度のIT アウトソーシングサービス市場規模は、前年度比7.4%増の2兆4,410億円になった。2006年度～2012年度は、年平均成長率（CAGR）6.3%で推移し、2011年度には、3兆円を突破し、2012年度には、3兆2,847億円に達すると予測する。

◆ 市場が拡大する五つの成長要因とは

事業者各社によるデータセンターの増床が続くことで、2010年頃にデータセンターが供給過多となり、若干の伸び悩みが見られる可能性が高い。

その一方で、データ量の増加、グリーンITの普及、内部統制強化の必要性、競争力確保の必要性、事業者の注力姿勢の五つが成長要因となって、IT アウトソーシング市場は堅調に成長すると予測する。

◆ 資料体裁

資料名：「IT アウトソーシングサービス市場の実態と将来展望 2008」
発刊日：2008年6月30日
体裁：A4判 330頁
定価：157,500円（本体価格150,000円 消費税等7,500円）

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝

設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先（当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>）

㈱矢野経済研究所 営業本部 広報グループ TEL：03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報室迄お問合せ下さい。

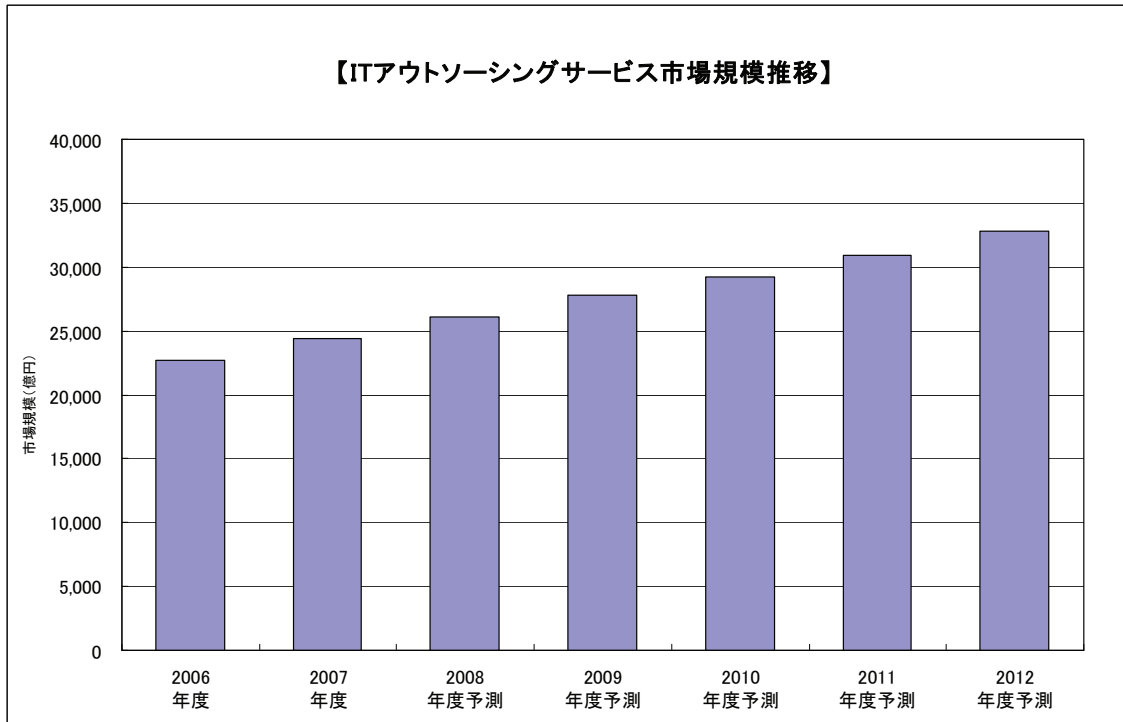
【 調査結果の概要 】**1. 市場概況と予測**

- 2007年度のITアウトソーシングサービスの市場規模は、前年度比7.4%増の2兆4,410億円に達した。
- 2006年度～2012年度は、年平均成長率（CAGR）6.3%で推移し、2012年度には同市場規模は、3兆2,847億円に達すると予測する。
- セグメント別の2006年度～2012年度の年平均成長率（CAGR）は、ハウジング6.8%、ホスティング8.4%、システムマネジメントサービス7.2%、アプリケーションマネジメントサービス5.5%、システムインテグレーションサービス4.2%、ASP/SaaSサービス7.4%、BPOサービス12.1%である。

2. 市場の5つの成長要因

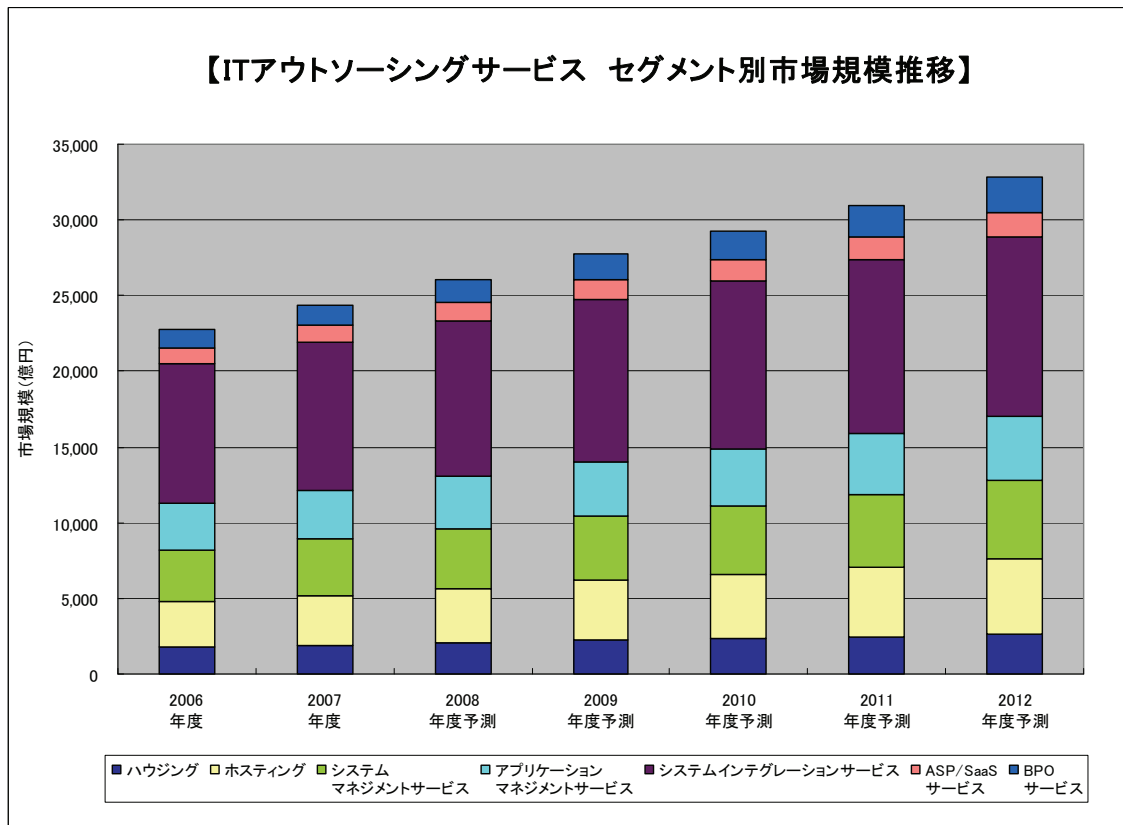
- 成長要因の第一に、データ量の増加がある。インターネットの普及により、扱われるデータ量は増加の一途にあり、その対応のためサーバの台数が増加している。増加したサーバを自社で扱いきれなくなり、データセンターを利用する企業が増加している。将来的にNGN(Next Generation Network)時代を迎えると、さらなるデータ量の増加が想定され、データセンターの利用がますます進むと考えられる。
- 成長要因の第二にグリーンITの普及がある。地球温暖化問題が重要視されるなかで、サーバ台数の増加による消費電力の増大が問題視されており、グリーンITへの取り組み強化の必要性が言われている。そうした環境面への対応は自社で行うよりも、データセンターに集約させる方が効率的と判断する企業が、今後増加していく可能性が高い。京都議定書批准に伴う6%の削減目標に向けて、データセンターの需要の高まりが予測される。
- 成長要因の第三に、内部統制強化の必要性がある。日本版SOX法の影響によって、企業に内部統制強化が求められている。企業に求められる情報管理レベルが高くなったことで、複雑化するシステムマネジメントを外部の専門家にアウトソースする企業が増加している。また事業継続対策のため、堅牢性の高いデータセンターの需要が高まっているほか、遠隔地にあるデータセンターの需要も発生している。今後、法規制が緩むことは考えがたく、これらの傾向はますます強まる可能性が高い。
- 成長要因の第四に、企業の競争力確保の必要性がある。景気の先行き不透明感が強まる中、企業はコアコンピタンスへの集中を強め、それ以外の業務をアウトソースすることでコストを削減し、競争力の確保に努めている。特にグローバル化が進む中、日本企業がBPO(Business Process Outsourcing)サービスまで含めた大規模アウトソーシングサービスを導入している欧米企業に対抗していくために導入を進めると考えられる。また労働市場における人材不足がその傾向に拍車を掛けることが予測される。
- 第五に、事業者側の注力姿勢がある。ITアウトソーシングサービスは、スポットでは終わらないストック型ビジネスであるため、収益の安定化に繋げることができる。また高付加価値化が可能であるため、サービスの幅を広げて収益を拡大させることもできる。そのほか、コスト削減に繋がるため、不景気でも顧客からの引き合いがある上に、欧米と比較すると日本では潜在需要がまだ大きい。これらにより、事業者側はITアウトソーシングサービスへの取組に前向きであり、それも市場の成長要因になると考えられる。

図1 ITアウトソーシングサービス市場規模推移と予測



矢野経済研究所推計

図2 セグメント別市場規模推移と予測



矢野経済研究所推計

表1 セグメント別市場規模推移と予測

(単位:億円)

	2006 年度	2007 年度	2008 年度予測	2009 年度予測	2010 年度予測	2011 年度予測	2012 年度予測
ハウジング	1,744	1,891	2,050	2,215	2,325	2,453	2,603
ホスティング	3,056	3,313	3,624	3,986	4,265	4,602	4,980
システム マネジメントサービス	3,430	3,705	3,967	4,265	4,521	4,842	5,224
アプリケーション マネジメントサービス	3,064	3,207	3,391	3,594	3,774	3,997	4,248
システムインテグレーション サービス	9,248	9,848	10,298	10,710	11,085	11,484	11,874
ASP/SaaS サービス	1,023	1,107	1,194	1,277	1,369	1,466	1,578
BPO サービス	1,173	1,339	1,532	1,731	1,923	2,125	2,340
合計	22,738	24,410	26,056	27,778	29,262	30,969	32,847

矢野経済研究所推計

注1:ハウジングサービス

サーバ等を顧客側が用意し、事業者はスペース、回線等を提供するサービス。

注2:ホスティングサービス

サーバ等を事業者側が用意し貸し出すサービス。

注3:システムマネジメントサービス

メインフレーム、サーバ等のハードウェアの運用保守、ネットワークの運用保守。

注4:アプリケーションマネジメントサービス

アプリケーション等の運用管理。

注5:システムインテグレーションサービス

情報システムの企画提案から要件定義、開発、構築、移行（ネットワーク構築を含む）。

但し、スポット的なシステムインテグレーションではなく、フルアウトソーシングの中での継続性のあるシステムインテグレーションとする。

注6:ASP(Application Service Provider)サービス

ASP・SaaS インダストリ・コンソーシアムの以下の定義に基づいたもの「特定及び不特定ユーザが必要とするシステム機能を、ネットワークを通じて提供するサービス、あるいは、そうしたサービスを提供するビジネスモデル」。但し、提供サービスの内容はアプリケーション。

その他、SaaS (Software as a Service) は、ASP と完全な同義ではないが、本調査では ASP に含む。

注7: BPO(Business Process Outsourcing)サービス

ITに関する業務に加えて、間接業務全般のビジネスプロセスを提供するサービス。